

(付記1) メルボルン市 (VIC 州) の五輪招致活動のその後

メルボルン市 (VIC 州)⁴⁴は、1996 年夏季五輪招致でアトランタに敗れたものの、スポーツ・コンベンション都市として活発な取り組みを続けている。そこで、メルボルン市の五輪招致活動のその後について紹介する。

同市の五輪招致活動も、シドニー市と同様、州政府が主体となって行われた。五輪招致活動後、州政府はイベント等の誘致を目的とした2つの組織を設立した。その組織とは、①スポーツ・文化イベントを誘致するビクトリア・メジャー・イベント・コーポレーション (VMEC) と、②ビジネス会議・見本市等の開催を支援するメルボルン・コンベンション・ビジターズ・ビューロー (MCVP) である。両組織は、五輪招致活動の経験を生かし、その後のメルボルン市及び VIC 州の知名度向上、観光客誘致に貢献している。

VMEC の運営

VMEC は、州政府により設立された公益法人。年間予算約 140 万ドルで、招致活動、常勤職員 (5 人) の給与、事務所賃貸料等を賄う。

主な業務は、様々なスポーツ・文化イベントの招致の可能性を精査し、招致活動を行うことであるが、招致活動を開始する前には州議会の承認を得なければならない。しかしながら、政府組織でないこと、また、5人という小さい組織であることから、意思決定を迅速に行うことができ、それが VMEC の機動力に繋がっている。

イベント招致

スポーツ・文化イベントの誘致は、経済効果やメディアに取り上げられることによる知名度向上と観光客の増加、施設整備等による都市格の向上をもたらす。

これまで VMEC は、2006 年英連邦大会 (Commonwealth Games)、2003 年ラグビー W 杯、F1をはじめ多くのイベントを誘致してきた。特に、F1は1億 5,000 万ドル、春のカーニバル (Spring Racing Carnival) は、3億ドルの経済効果をもたらしている。しかし、最近では、中国、ブラジル、メキシコなど、国を挙げてイベント誘致に積極的に取り組んでいるところもあり、誘致合戦は厳しさを増しているとのことである。

VMEC は、誘致可能なイベントについての日頃の情報収集、調査活動の結果、約 90% の誘致成功率を挙げるに至っている。

MCVP

MCVPも VMECと同様、州政府が設立した公益法人である。MCVPは、メルボルンで会議等の開催を検討している組織に対し、ノウハウを生かし、開催地・開催日の選定、ホテル等の紹介、各分野の専門サービスの紹介等を行うことにより、メルボルンでの会

⁴⁴ メルボルン市は、1956 年五輪を開催。当時は、17 競技 (シドニー五輪では 28 競技)、72 か国 (同 200 か国)、参加選手 3,342 人 (同 10,305 人) という規模であった。また、当時の豪州は、検疫に時間がかかったことから、馬術競技はストックホルム (スウェーデン) で開催された。

議等の開催を支援している。

メルボルンは、ICCA(International Convention and Congress Association)によると、2000年の会議開催数は、世界第2位であった。

(付記2) 各競技施設概況 (※は施設の特徴)

[五輪公園]

スタジアム・オーストラリア

- 開催種目等:開会式、閉会式、陸上、サッカー(決勝)
- 完成:1999年2月(1996年9月着工)
- 観客収容数:80,000人(五輪時115,600人)
- 建設費:7億1,000万ドル(五輪時改修1,630万ドル)
- ※五輪時115,600席中約65,000席がアンダーカバー。
- ※スタジアムの屋根に降った雨水75万リットルを、地下4ヶ所に集め、便所排水用に使用。
- ※競技場の四方に螺旋スロープがあり、配達車両、緊急車両が走行できるほか、110,000人が20分で避難できる。
- ※隣接する国際陸上競技場との間に地下通路があり(150万ドル)、五輪中は選手の移動用として使用された。

スーパー・ドーム

- 開催種目:バスケットボール、体操
- 完成:1999年8月(1997年9月着工)
- 観客収容数:21,000人
(五輪時 バスケットボール20,000人、体操16,900人)
- 建設費:1億9,700万ドル(五輪時改修800万ドル)
- ※南半球最大の多目的室内競技場。
- ※豪州最大規模の駐車場(3,400台分)が隣接する。

アクアティック・センター

- 開催種目:競泳、飛込み、シンクロ、近代五種、水球(決勝)
- 完成:1994年8月(1992年4月着工)
- 観客収容数:8,500人(五輪前4,400人、五輪時17,500人)
- 建設費:1億5,000万ドル
(五輪時改修 仮設スタンド3,370万ドル、その他770万ドル)
- ※観客に配慮し、広い切妻屋根で柱がない設計。
- ※50mの競技用プールを25mプール2つに変えることができる可動式の隔壁あり。
- ※ウォームアップ・プールの底は可動式で、水深0mから2.5mまで調整可能。
- ※競技用プール(50m・10レーン)は、水面が地面と同じで、波が外に流れていく工夫がされているほか、レーンのセパレーターも丸型で、となりのレーンの波が入りにくい。
- ※全ての飛び込み台にスピーカーが備え付けてあり、どの台でも均等に声が聞こえる。

国際陸上競技場

- 開催種目等:ウォームアップ用グラウンド
- 完成:1994年3月
- 観客収容数:15,000人(スタンド5,000人、芝生10,000人)
- 建設費:5,000万ドル

※ 体育祭、トレーニングなど多目的に活用されている。

ショー・グラウンド

- 開催種目:野球、近代五種
- 完成:1998年2月(1996年5月着工)
- 観客収容数:12,000人(五輪時11,000人(スタンド)+14,000人(芝))
- 建設費:1,100万ドル(五輪時改修310万ドル)



ショー・グラウンド(野球用に改造しているところ)(©OCA)

州テニス・センター

- 開催種目:テニス
 - 完成:1999年12月(1998年11月着工)
 - 観客収容数:10,000人(センターコート)
(その他のコート(五輪時のみ)7,400人)
 - 建設費:4,290万ドル(うちNSWテニス協会及び豪州テニス協会(710万ドル)(寄付)、SOCOG(130万ドル)(寄付))(五輪時改修850万ドル)
- ※五輪後、NSW州テニス協会所有となり、一般に開放される。
※軽量屋根の使用により、70%の席が日陰となる設計。
※元々、ショー・グラウンド付近の煉瓦工場跡地(Brick Pit)付近に建設される予定であったが、希少種のカエル保護のため現在地に変更された(44頁参照)。



テニス・センター(右側中央がメインコート)(©OCA)

州ホッケー・センター

- 開催種目:ホッケー
- 完成:1998年8月(1997年4月着工)
- 観客収容数:5,000人(五輪時15,000人)
- 建設費:1,600万ドル(五輪時改修1,190万ドル(州スポーツ・センター含む))



州ホッケー・センター(©OCA)

国際アーチェリー・パーク

- 開催種目:アーチェリー
- 完成:1998年7月(1998年1月着工)
- 観客収容数:五輪時4,500人
- 建設費:300万ドル(五輪時改修540万ドル)

州スポーツ・センター

- 開催種目:卓球、テコンドー
 - 完成:既存施設(1983年6月着工、1984年11月完成)
 - 観客収容数:3,800人(五輪時5,000人)
- ※ホームブッシュ・ベイで最初に完成したスポーツ施設。

[バンクスタウン (選手村から 13km)]

バンク・グレイ競輪場

- 開催種目:自転車
 - 完成:1999年11月(1998年5月着工)
 - 観客収容数:3,000人(五輪時6,000人)
 - 建設費:4,200万ドル(五輪時改修590万ドル)
- ※1,400台分の駐車場付。

[フェアフィールド (ホーシュレイ公園) (選手村から 28km)]

国際乗馬センター

- 開催種目:馬術
 - 完成:1999年9月(1997年11月着工)
 - 観客収容数:2,000人(五輪時50,000人うちメイン会場2,000人)
 - 建設費:4,400万ドル(五輪時改修1,640万ドル)
- ※1997年3月にイースタン・クリークからホーシュレイ公園へ会場設置計画が変更された。

[ブラックタウン (選手村から 26km)]

ブラックタウン五輪センター

- 開催種目:ソフトボール、野球
- 完成:2000年2月(1999年3月着工)
- 観客収容数:ソフトボール会場1,000人(五輪時8,000人)
野球場500人(五輪時4,000人)
- 建設費:3,130万ドル(OCA、NSW州スポーツ・レクリエーション省、SOCOG、ブラックタウン市、NSW州野球協会が共同負担)

[ペンリス (選手村から 47km)]

レガッタ・センター

- 開催種目:カヌー、カヤック・スプリント、ローリング
- 完成:1997年10月(パビリオン)・1996年3月(競技会場)(1995年着工)
- 観客収容数:30,000人(うちパビリオン1,000人)(五輪時27,000人(ローリング)、24,000人(カヌー、カヤック)その内スタンド席16,000人)
- 建設費:3,600万ドル(五輪時改修1,060万ドル)

ホワイト・ウォーター・スタジアム

- 開催種目:カヌー、カヤック・スラローム
- 完成:1999年5月(1998年6月着工)
- 観客収容数:5,000人(五輪時スタンド8,500人+芝4,000人)

- 建設費:660 万ドル(OCA350 万ドル、ペンリス市 150 万ドル、国際カヌー協会 150 万ドル)(五輪時改修 670 万ドル)

[リバプール (セシル公園) (選手村から 35km)]

シドニー国際射撃場

- 開催種目:射撃
- 完成:1999 年 9 月(1998 年 3 月着工)
- 観客収容数:1,250 人(五輪時 7,000 人)
- 建設費:2,990 万ドル(五輪時改修 680 万ドル)

[ライド (選手村から 11km)]

ライド・アクアティック・レジャー・センター

- 開催種目:水球
- 完成:2000 年 4 月(1998 年 11 月着工)
- 観客収容数:800 人(五輪時 3,900 人)
- 建設費:2,590 万ドル(OCA とライド市の共同出資)(五輪時改修 800 万ドル)

[ボンダイ (選手村から 31km)]

仮設ビーチバレーボール会場(ボンダイ・ビーチ)

- 開催種目:ビーチバレーボール
- 完成:2000 年 8 月(2000 年 5 月着工)
- 観客収容数:10,000 人
- 建設費:1,760 万ドル

[サウス・シドニー (選手村から 26km)]

シドニー・フットボール・スタジアム

- 開催種目:サッカー
- 完成:既存施設(1988 年 1 月完成)
- 観客収容数:41,000 人(五輪時 42,000 人)
- 建設費:310 万ドル(改修)

※所有者—シドニー・クリケット・アンド・スポーツ・グラウンド・トラスト(民間)。

※74 の企業用ボックスシート—1 ボックス(20 人用)年 55,000ドル、140 の年間予約席(12 人用)年 20,000ドル

※1900 年にシドニー・スポーツグラウンドとして整備、1988 年に現在のスタジアムとしてオープン。スタジアムの玄関に開場を記念したタイムカプセルが埋め込まれている。地面より低めに作られ、圧迫感を与えないように考慮されている。特色は鞍型の屋根であるが、スタンド席に雨水が入りやすいという欠点もある。